

# 令和7年度農業者等との意見交換会（意見まとめ）

各班でテーマに基づき、自由に意見を出し合いました。

## テーマ：将来の担い手確保について

### <地域の現状>

- ・どの地域も跡継ぎや担い手が不足している。
- ・新規就農者が少ない反面、離農者が増えている。
- ・サラリーマンの定年が延長になり後継者不足に影響している。
- ・法人化しているところも、以前に比べ担い手がない。
- ・国の政策がころころ変わり、安定しない。
- ・大規模農業できない、小さな農地の多い地域は、遊休農地が増えている。
- ・農地所有者も農地を売りたい、貸したいという意思が不明な場合が多い。
- ・クマ等の害獣対策には草刈りが大切だが、河川管理者が河川敷を整備していない。
- ・地域の30数軒のうち65歳以上が7割の集落では、法人を立ち上げ農作業委託をしている。後継者がいるのは現状10人ほど。
- ・多面的機能支払制度で、草刈り、水路、農道の維持管理をしているが、作業や事務の担い手も減少し活動が危ぶまれる。
- ・農地や機械、施設（牛舎など）を地域で活用する仕組みがない。
- ・農家は街の外に住む人が多いが、学校やスーパー等が遠く、若い人は街の中心に移り住むことを選ぶ。
- ・地域の担い手に将来的にお願いしたいが、担い手も高齢化している。
- ・法人化もできない集落営農が解散しそうである。
- ・立地の悪条件：中山間の農地が多い地域は作業を引き受けてくれる人がいない。耕作者も耕作地を増やそうとしても条件の良い農地の確保が難しい。

各班の話し合いの中で、大きく3つの意見が出た。

<問題点・課題点>	<どうしていきべきか>
<p><b>①若い人が就農を希望しない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械等の初期投資が必要で、就農への魅力を損なう。機械の更新が可能なだけの収入が保証されない。</li> <li>・農家は価格転嫁ができないため、コスト増加に悩んでいる。</li> <li>・休みがない、重労働、長時間というイメージが根付いている。</li> <li>・1日のスケジュールや収入の見通しを含め努力で解決できないリスクが多い。</li> <li>・農業の魅力をどう伝えればいいかわからない。どんな発信をすべきか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社化することで給料を保証し、雇用就農の促進による人材の確保を進める。</li> <li>・農産価格が安定（生産費に連動）してくれば担い手の確保に繋がると思うので、公的に設定してくれると良い。</li> <li>・農業における年間のスケジュール、土地のデータベース、作業日誌を保存し跡取りにつなぐ準備をしておく。</li> <li>・若者だけでなく、定年になってから、再雇用ではなく農業が選択肢となるよう定年退職者に向けた働きかけを増やす。</li> <li>・跡取りや子供が農業についてどう考えているかの意向調査を集落単位で行っておくことにより、地域計画の資料として活用する。</li> <li>・新規就農希望者と辞めていく人をつなぐ方法はないか。機材の購入コストを抑え、ノウハウの継承をできる環境を作れると良い。</li> <li>・収入の確保だけでなく農業の魅力を伝えることが大切。研修体制を整備し、自給自足の良さや農業体験の楽しさを伝えたい。</li> <li>・小規模、不定形農地を①就農希望者へお試しとして②市民農園として貸し出せるしくみを作り、農業参入を促す。</li> </ul>

<p><b>②農地確保が困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農希望者がいても、使える農地が見つからず農地確保が難しい。</li> <li>・中山間の農地は水路が小さく作業効率が悪い。耕作地を増やしたい農家も中山間地域を避け、条件の良い農地を欲しがっても、見つからない為増やせない。</li> <li>・給水管が農地の下を通っていることで問題が発生している地区もある。農道の下に布設替えしなければ安心して農業ができないし、若い人にも譲れない。</li> <li>・農地の流動化を図る政策として、中間管理機構を介して賃借の契約に移行したが、農地の貸付希望者も不透明で、契約への具体的な流れも見えない。</li> <li>・基盤整備により今後どうなっていくか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保や集約化について考えるべきは大規模農家ばかりではない。兼業農家や中小規模農家も含めて考えたい。</li> <li>・中間管理機構等で貸付希望者等がわかる仕組み（オープン化）が必要だと思う。</li> </ul>
<p><b>③現役就農者の減少</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今は働けても、急な体調不良等のとき引き継ぐ人がいない。</li> <li>・集約化検討会などの話し合いを開いても、参加者がいつも同じ。現状への対策を話し合うにも同じ話になってしまう。</li> <li>・担い手が高齢化している中、今広い面積の耕作を引き受けている担い手に、更に頼めるのか。</li> <li>・認定農業者になるための年齢条件などのハードルが高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模農家を維持させるため、機械の整備、修理に対する補助のしくみを他の市町村に先駆けて行ってほしい。</li> <li>・非農家、地域外の方でも収穫作業のパート等ができるしくみがあると良い。すき間時間のアルバイトを募集するアプリ等を活用できたら良い。</li> <li>・市内の会社と協力し、その能力をスマート農業に活かすことができれば良い。</li> <li>・市内に空き家が多く、周囲には畑があるので、うまく利用して安価な土地付き移住場所にすることで、地域外の人を受け入れができないか。</li> </ul>

その他、以下の意見も出た。

- ・ 農業人口が減るばかりであれば、本当に優良な農地のみで経営することに考え方を切り替えることが、今経営している農家が受け入れやすいと思う。
- ・ 離農者が農地を人に貸したとしても、地域の草刈り作業をするなど「自分の土地は自分で守る」という意識は必要だと思う。
- ・ 担い手農家に向けた助成だけでなく、規模や品目、専業から兼業まできめ細かい助成の体系が必要である。
- ・ 第三者への農地継承を行う場合、作業期間は数年にわたることから、それらに対する人材バンクのような助成を立ち上げることが必要だと思う。
- ・ 価格政策や所得補償についての措置は、現在国で示しているメニューでは不足しているため、新たな措置を求めていく。
- ・ 農協や大規模農業経営体の職員が将来独立して農業ができるよう、人材教育できる仕組みがあると良い。